

2024 年度 事業報告

●はじめに

2024 年度は年初から令和 6 年能登半島地震が発生し、その後 8 月および令和 7 年 1 月には宮崎県での地震が相次ぐなど、全国各地で地震が頻発しました。さらに、集中豪雨や大雪、地球温暖化の影響で酷暑による熱中症問題など、住みづらい環境変化が一層進んでいます。

同様に、コードイを取り巻く環境や時代の変化も年々厳しくなっています。しかし、災害と同様に、実際に影響を受けない限り変化を実感しにくいのが現状です。

一方で、コードイ受講歴 3 年以下の方が 57%、5 年以下が 74%とコードイの歴史を知らない受講生が増えつつあります。教室訪問時の受講生との意見交換の中でも、そのことを実感する機会が増えています。次年度以降はこの点を見直し、動画などを活用して受講生にコードイの歴史をより深く知っていただき、更なる飛躍を目指して活動していきます。

毎年、総会の時期にはその年度を振り返りますが、反省と次への意欲が入り混じる複雑な心境になります。2024 年度を総括すると、計画に対して一定の成果を上げることができたと考えています。しかし、先述のような環境変化に迅速に対応するためには、さらなる成果を追求し、組織としての体力を強化する必要があります。

2024 年度の反省を 2025 年度に活かし、「皆さんの傍にはコードイがあり、コードイの傍には皆さんが居られる」という強い絆をさらに深め、コードイが皆さんにとって『心地良い居場所』となり、誇れる存在となるよう今後も活動していきます。

●事業報告

1. 部門制からグループ制への大きな組織変更を行い、新体制の効果を最大限に発揮しようと活動してきましたが、期待していたほどの成果には至りませんでした。今後は時間をかけて責任と権限を適切に付与しながら、次世代を中心とした運用体制の強化を進めていきます。
2. 教室分散化によるデメリット解消と一体感の維持を目的に、谷町 6 丁目駅近辺に谷町分室を開設し、CD の利便性を向上させました。
また、常に快適な学習環境を提供する方針のもと、教室探索は継続しており、2026 年度に向けて新たな教室確保の見直しを行います。
3. 未来を見据えた魅力的でワクワクする新学習システムの構築は継続中です。活動のテーマの一つである 3 大イベントのうち「健康まつり」は雨天中止となりましたが、入学式やフェスタには新たな手法を導入し、多くの方々から好評を得ました。

次年度はさらに新学習システム構築を加速させ、快適な学習環境と「心地良い居場所」の提供を目指します。

4. 生涯学習校の根幹である講座については、科目の新陳代謝や魅力的な講師の発掘を積極的に推進しました。その結果、2024 年度は新規科目 6 科目、科名変更を含むバージョンアップが 23 科目となり、約半数の科目に新たな魅力を加えました。その成果としてコロナ後、最多の応募者数・受講申し込みがあり、12 月 26 日の再募集時には未達人数が 1 桁という過去にない結果を達成しました。
講師陣も新たな人脈を構築し、引き続き魅力ある講師の発掘を進めています。
5. 研修を通じた人材育成は難航し、期待した成果には至りませんでした。しかし、人材こそがコーダイの基盤であるとの認識のもと、2025 年度はこのテーマに重点を置き、人材発掘・育成に一層注力いたします。
6. 社会参加活動については、長年取り組んできたものの時代の変化や世代間ギャップなどにより、受講生への浸透に課題が残ります。
受講生の意識醸成も含め、コーダイ全体で取り組めるよう、時代に即した新たな活動方針・内容を継続検証し、2025 年度の活動に順次反映していきます。
7. 活動の効率や利便性向上などを目的にデジタル化を推進していますが、十分な成果には至りませんでした。
ただし、電子決済システムの構築は完了し、交通費・謝金等の決済システムも改良を重ね、効率化・利便性向上・ミス削減に寄与しています。次年度はさらにデジタル化を加速し、目標達成を目指します。
8. 環境問題への取り組みとして、2025 年度から名札ケースの貸与方法を見直し、貸与数削減を実施します。小さな一歩ですが、環境意識の醸成も含め、少しでも環境改善に寄与できればと考えています。
また、「古着回収」や「C to C」の導入は時間を要していますが、2025 年度の実現に向けて引き続き検討を進めています。
9. 3,000 人以上の応募者確保と多くの新人獲得を目指した活動の結果、応募者数・新人数はコロナ後、最多となり未達定員数は早期に 1 桁となりました。今後も新たな考え方や手法を導入し、更なる成果を生み出せるよう活動を継続します。
10. コーダイの認知度向上活動は継続していますが、紙媒体と SNS を活用した広報活動については、さらなる検証が必要です。また、HP の利便性向上の一環として、一般市民向けだけでなく受講生向けのコンテンツも設けました。今後も迅速な情報発信を心掛け、認知度アップに繋げていきます。
11. 財務システム強化の取り組みにより、予算と実績の差異検証が迅速化しました。ただし、予算精度については引き続き検証を重ね、さらなる精度向上を目指します。

●学習グループ

1. 2024 年度は使用教室が 9 カ所に分散したことや社会福祉会館で 20 講座を開催することに伴い、谷町 6 丁目に谷町分室を開設し、各曜日 3 人体制で CD 業務に支障が出ないように支援しました。

担当者の迅速な対応で多くの場合、当日の講義に支障は出ませんでした。

- ・教室分散化に伴い、距離と時間の制約で曜日 CD 会議は曜日を替えて実施せざるを得ませんでした。回数も 2 回/年で少なく、課題の抽出が十分出来たとは言えませんが、曜日担当との意思疎通を密にすることで解消しました。

距離解消の新たな試みとして、Zoom ミーティングを 3 回/年実施しましたが、一方向の連絡のみとなり、双方向の意見交換が行えるよう次期課題として取り組みます。

- ・学習委員会は 6 回/年開催しました。当座の課題を議題として忌憚ない意見交換を行い有意義な会となりました。今後は事前に討議議題を提示し、より深い議論を行い、解決策を提言できる会とします。

2. 学習グループ各チームの役割機能の発揮について

- ・曜日担当チームは分室設置に伴い、各曜日 3 人体制で CD をバックアップしました。

- ・学習運営推進チームは未来を見据えた魅力的な学習システム構築に向けて、現状のカリキュラムの見直しを行い、改善に努めてきました。自主活動の進め方についても事例を含めた開設を行い、コーダイライフの充実に努めてきました。

未来を見据えた魅力的な学習システム構築に関して「新学習システム構築プロジェクト」を新たに立ち上げました。スピードアップして討議を深めていきます。

- ・学習事業チームは受講生アンケートを参考に、皆が楽しむ健康まつり・フェスタ企画を立案しました。健康まつりは天候の関係で中止となりましたが、フェスタは新企画の評価も良く、多くの受講生に楽しんでいただきました。

- ・社会参加活動支援チームはコーダイの柱である社会参加活動の意義を説明する資料作成とホームページを活用した情報提供の整備に取り組みました。

- ・教務事務チームは従来の紙ベース処理から IT を活用し迅速・正確な経費処理に努めました。

【総括】

2024 年度は教室の分散化に対応すべく、分室の設置と曜日担当と補佐 2 名の 3 人制で CD 業務に支障が出ないように努め、快適な学習環境を構築すべく努力して、大きな問題は生じませんでした。2025 年度は教育会館東館を中心に分散化は少し解消しましたが、引き続き CD とのコミュニケーションを強化し、快適な学習環境の構築に向け努力していきます。

●教科研究グループ

本年度も継続して「魅力のある科目」作りとコーダイの認知度向上に努めました。昨年度より実施しております科目別アンケートを参考にして、カリキュラム編成に活かしました。新たな「魅力のある科目」を作る為、オーダメイド講座募集も2年目を迎え、受講生・スタッフの方々から新規科目の提案をいただき、従来にはない内容の科目を開講する予定です。特に受講生にターゲットを絞った科目紹介冊子「おすすめ講座アラカルト」により、従来に増して科目の内容が理解出来たとの声もいただきました。

コーダイ市民公開講座につきましては、大阪府との共催効果もあり毎回ほぼ募集定員をオーバーする申込をいただきました。他の高齢者向け学習機関との交流も継続して運営の参考とさせていただいています。

1. 2024 度は大阪市教育会館の建物解体、新棟建設の関係で教室確保が難しく分散教室での授業となり、応募状況を危惧していました。コーダイ全体での従来に増してきめ細かい募集活動の結果、前年を上回る応募をいただきました。
2. 本年度は開講講座の1割に当たる6科目の新規講座を開講いたしました。また、従来科目については科目別アンケートを踏まえて、カリキュラムの変更に活かしました。さらに23科目につきましては、講座内容がより判り易い科目名に変更しました。新科目と合わせますと29科目と開講講座の約半数近くの講座名称を変更しました。
3. 受講生の7割を超えるリピーターの方々に科目内容をより知っていただくように、全受講生に「おすすめ講座アラカルト」を配布しました。内容は新科目と応募状況の芳しくない科目について、各科1ページで講座の紹介をしました。
4. それらの努力の結果、2025年度の応募者は前年を150名以上増え、応募総数はコロナ以降最大の2,759名でした。新人の応募も増えてきましたが、それにも増してリピーターの方が前年より100名強増加しました。新科目(6科目)は合計で応募率190%近く、その内リピーターだけで募集定員を140名以上超えました。新科目の魅力を評価いただけた結果だと思います。「おすすめ講座アラカルト」の成果か定員割れ科目が減り、特に応募率が50%を下回った科目が減少しています。
5. 本年度は短期講座として開講した科目の中で、通年講座として2科目を開講する事ができました。短期講座開講目的を通年講座への開講検討講座と定めた以降、初めての事です。
6. コーダイ市民公開講座は受講生に対しての科目以外の学びの場の提供、並びに一般の方には広くコーダイを知っていただくという目的で開催していますが、当年はその目標を達成できたと思います。本年度は開催予定6回のほぼ全てで定員オーバー、もしくはほぼ定員という状況でした。その中で音楽の講座は応募数が2倍近い状況で急遽、日程を追加してもう一回講座を開設しました。
7. 夏休みを利用して教養講座を開講しました。本来は受講生向けの講座として開講しています。本年はそれ以外に絵画向け募集活動の一環として、教養講座を活用しま

した。募集状況が低迷している水彩画応用科について、先生とご相談の上、2025年度より日本画的要素を取り入れる検討を行いました。それについて受講生の反応を見るため、水墨画の講座を教養講座として企画したところ定員を大幅に超える応募をいただき、講座も高評価をいただきました。2025年の応募で定員を達成しました。

8. 2026年開講科目については2025年3月に決定しました。今後もこのサイクルで開講科目の決定をします。これにより授業開講時にはCDの方に授業に専念いただけるようにします。
9. コーダイ以外の高齢者向け学習機関との情報交換の場として、今年度も関西シニア交流会、大阪シニア交流会に参加し意見交換を行いました。また、今後日本より高齢化が急速に進むと予想されている中国の高齢者向け教育機関の方が、本年も2度訪問下さり意見交換をしました。

●事業グループ

事業推進・子ども事業・ファンド・校友会の各チームが事業グループとしての連携の基に1年間活動をしてきました。

<事業推進チーム>

受講生の多くが参加することにより楽しんでいただける、あるいはこれからの生活に役立てていただけることを大きな目標としました。

大阪再発見と銘打った、府下の各地の名産物収穫を目的とした数回のツアーは参加された皆さんに喜んでいただけました。

恒例の冬の2回の大阪マラソンも、各150名以上の受講生に沿道整備等のボランティアとしてお手伝いいただき主催者からも感謝をいただいています。

1月にはアマチュアのフルオーケストラによる演奏会を開催し、700名を超える聴衆の皆さんから感動の声もいただきました。

コーダイによる社会活動の一環であります、棚田契約による新米の配布は2024年度も社会福祉協議会を通じて行い、子ども食堂等から感謝の言葉が寄せられています。

当初の計画通りにできませんでしたが、高齢者詐欺対策講座・救命講習会は2025年度実施に向けて活動を開始しています。

<子ども事業チーム>

子どもを対象にした各教室はコーダイの伝統行事であるとの認識の下に、科学実験教室・科学フェスティバル・伝統文化教室を当初計画通り実施しました。

大勢の子供達、ご家族の方々にご参加いただきタッフの意欲が一層湧いてきます。

公的機関の助成金も順調に推移しています。

<ファンドチーム>

寄附金は受講生や講師の先生方から多くのご支援をいただき、コーダイ運営における社会参加活動に活用させていただいています。

寄附金利用については、事前申請に基づいた各事業への振り分けを行っていきます。

<校友会>

コーダイOBを中心とした団体の集合による校友会については、その構成員の見直しを図っています。

今年度はコーダイ行事への積極的な参加を行ってきました。さらに、コーダイと一体となった活動を目指すべく、全構成団体の話し合いを続けています。

●情報管理グループ

<情報管理チーム>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講決定後、入学案内など発送し、受講生名簿、名札など入学準備の体制づくりを行いました。
2. 受講生・講師・スタッフのデータベース化して個人情報の管理運営に努めました。
3. ホームページでは募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信し申込フォームから1,600件以上の申込がありました。
4. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデジタル・データベース化、並びに修了証書の発行を行いました。
5. 事務所内ネットワークシステムとパソコンなどの機器の保守管理を行いました。

<デジタル化推進チーム>

1. パソコン・スマホのスキルアップ講座を2講座実施しました。
2. オンラインシステムの理解度を高めることを目的に他グループと協働し、スキルアップを図りました。
3. SNS（Facebook・X・Lineなど）の会員数の増加を図りました。

<デジタル化推進プロジェクト>

HPリニューアル

1. 出席簿・講座実施報告書・講師承諾書などデジタル化に取り組みました。
2. コーダイネットワークの整備（Wi-Fiなど）完備しました。
3. イベント参加料の支払いに電子決済を開設しコンビニ等から振込可能になりました。

●広報グループ

広報グループはコーダイの認知度を高め、愛称コーダイを浸透させるための仕組みを

検証し、目に見える形で認知度アップを実感できる施策を遂行しました。

<HP・SNS活用>

1. コーダイを認知してもらうための最大ツールである HP を最大限に活用し、常に新しい情報の収集を行い、HP の訪問者数の増加を目指しました。また、受講生のための「受講生サイト」を新たに立ち上げ、受講生への情報提供を頻繁に行いました。「受講生の声・講師の声」を通じて、各クラスの魅力を動画で分かりやすく伝えました。(現在 39 クラスの動画をアップ)
2. SNS に関しては、ラインカフェを使用して、今まで以上にコーダイからの役に立つ貴重な情報や新着情報をいち早く伝えました。コーダイ生にとっては必須のツールとなっています。(現在の登録者数 2,512 人)
3. Facebook、X、Instagram に関しても、わずかずつではありますが、登録者数が増加しています。

<広報ツール>

1. 広報誌「れいんぼー」「学校案内」「募集案内」等、紙媒体を発行するにあたっては、それがコーダイの認知度アップに繋がっているのか、読者が必要としている情報が提供されているのかを考察し、内容のレベルアップを図りました。また、講座説明会、市民公開講座など、様々な機会を捉えて配布しました。
2. コーダイの認知度アップのために制作したプロモーションビデオを様々な機会にフルに活用し、新人獲得に結びました。

<パブリシティ>

1. 効果的なプレスリリースの配信を行うために、メディア向けにメールマガジン始めました。
2. コーダイの認知度を高め募集人数の増加を目的に、募集案内期間に合わせて、読売新聞にシリーズで広告を出しました。

<SDG s の推進>

1. 環境問題の取り組みの一環として印刷物、コピーの削減に取り組み、印刷申込の流れを確立し、過剰な部数の印刷をなくしました。

●総務グループ

新事務所移転の諸準備・教室の分散化対応・予算と実績との差異管理を柱に業務を遂行しました。

総じて多くの時間と労力を使った事務所移転では、「ムダの排除・大量備品発注の責任・備品管理の重要性」等、多くの教訓を得ることができました。「新事務所準備委員会」を通じて計画の策定から、諸問題の準備、引越作業まで積極的にかかわりました。

移転を契機に一部規程の見直し、備品の整理・整備を行いました。

教室の分散化により諸問題が発生しましたが、都度その解決を図りました。

経理チームにおいて、人的体制の確保を図り、安定的な日常業務遂行が可能になりました。

グループ毎の経費管理サポートはできずに終わりましたが、全体の四半期毎の実績管理・報告を実施しました。

<経理チーム>

1. 受講料の現行維持を図る上でも無駄な経費の削減を主に、各グループ・スタッフ・CD との話し合いの場を目指しましたが、実施するに至りませんでした。積極的な働きかけができず、日常業務に終始しがちであったことが要因の一つです。
2. この間、つぎはぎ的に使用されてきた伝票類の見直しを図りました。伝票様式の簡素化・書式の統一・記入ルールの明確化を提起し、スタッフへの周知徹底を行いました。
3. インボイス制度については、スタッフ及びCD の理解は深まりました。引き続き人事異動にも対応していく必要があります。
4. 電子帳票保存法については、理解とルール化への対応が出来ずに終わりました。

<事務局チーム>

1. 新事務所移転が 2025 年 1 月に無事完了しました。
準備の段階で、文書管理規程案の策定を行い運用が開始されました。とりわけ文書保存期間の整理で文書量のスリム化や保存スペース確保等、スムーズな移転に繋がりました。
大量発生した廃棄物処理は、長年蓄積されたものとは云え、多くの労力を費やすこととなりました。問題意識をもって備品などの日常管理をする必要があります。
2. 教室の分散化にともなう種々の課題が発生し、関係部署と協力して対応にあたりました。課題の一つであった、教室予約方法についての改善を行いました。
3. 諸規程・ルールの作成については、文書管理規程の他、個人情報保護規程が決議されその運用が開始されました。
4. 災害対応については、教室の分散化もあり一部の教室しかできず今後の課題です。
5. スタッフ・CD の緊急連絡先登録及びスタッフの個人情報に関する「誓約書」を徴収しました。

●募集委員会

2025 年度受講生募集は、講座内容の見直し及び教室の分散化がかなり修正されたことに伴い、通年講座 60 科目・定員 2,418 名、短期講座 2 科目・定員 120 名で開始しました。

第一次応募期間は昨年同様ほぼ 1 か月間としましたが、特に皆様からの異論の声もなく、定着しつつあると感じています。

応募総数は 2,750 名、コードイに初めて応募いただいた方は 700 名を超えました。

ただ、応募の特定科目集中により、今回も 660 名の方々が抽選で選外となられ、第一

希望科目の受講が叶いませんでした。その内、半数以上の方には他の科目を受講いただきましたが、コーダイ受講を断念された方は今年も多くおられます。

受講申込み後、期日までに入金がなくキャンセルとなられた方は今年も 150 名超で、年明けの 2 次募集の対象となりました。ここでも特定科目集中による抽選が行われました。選外と言う結果が続くことに対する対応策の検討の声をいただいています。

募集活動の中心となる募集案内冊子の各所への配架、及び自治体への広報掲載依頼については、コーダイスタッフ全員での対応を心掛けました。

さらに、各地で行う講座説明会については、コーダイに初めて来られる方への解り易い案内・対応がまず一番に求められることを再認識し、改革に努めます。

最終的には、通年講座 2,410 名の受講が確定しました。昨年より約 60 名増です。

また、コーダイに初めてお迎えする受講生は 670 名です。

改めまして、ご応募いただきました皆様に感謝いたしますとともに、コーダイ一丸となって魅力あるコーダイを目指していきます。